

特定非営利活動法人

アレルギー児を支える全国ネット
アラジーポット



アラジーポット

www.allergypot.net



消費者庁

外食等におけるアレルギー情報のあり方検討会

消費者庁食品表示企画課

患者会の立場から

特定非営利活動法人アレルギー児を支える全国ネット

「アレルギーポット」

2014.06.02





アラジーポット

- 🌸 設立年月日：2002年12月1日(NPO法人：2004年10月)
- 🌸 設立メンバー：親・病棟保母・臨床心理士等7名+顧問2名
- 🌸 会員数：約1500名
(300名は医療・教育・行政・メディア・企業・個人など)
- 🌸 設立の経緯：2人の子どもが喘息・アトピー・食物アレルギーだった
- 🌸 姿勢：自ら学び、情報を収集し、蓄積し、整理して発信する

**保育園・幼稚園・学校などの教育機関での
アレルギー疾患の正しい理解により、
子どもたちが安全に過ごせるよう
あらゆる機関、あらゆる立場の方々と、
それぞれの立場を大切にしながら連携し
社会基盤の整備をする**





"アレルギー児を支える全国ネット"のコンセプト



アラジーポットの情報発信

**「ガイドラインの作成に
日本で初めて参加した患者会」
(2004年:朝日新聞)として
全ての情報を
ガイドラインを基に発信する**



紙芝居：病気の無い子に病気を説明する

たまごのたまちゃんの
しらなかつたこと

(しょくもつアレルギー)



「伝えなければわからない
伝えるのは私たち」

食べ物で人がなくなる..

とくってなあに



ピーせいひふえんって
うつるの？



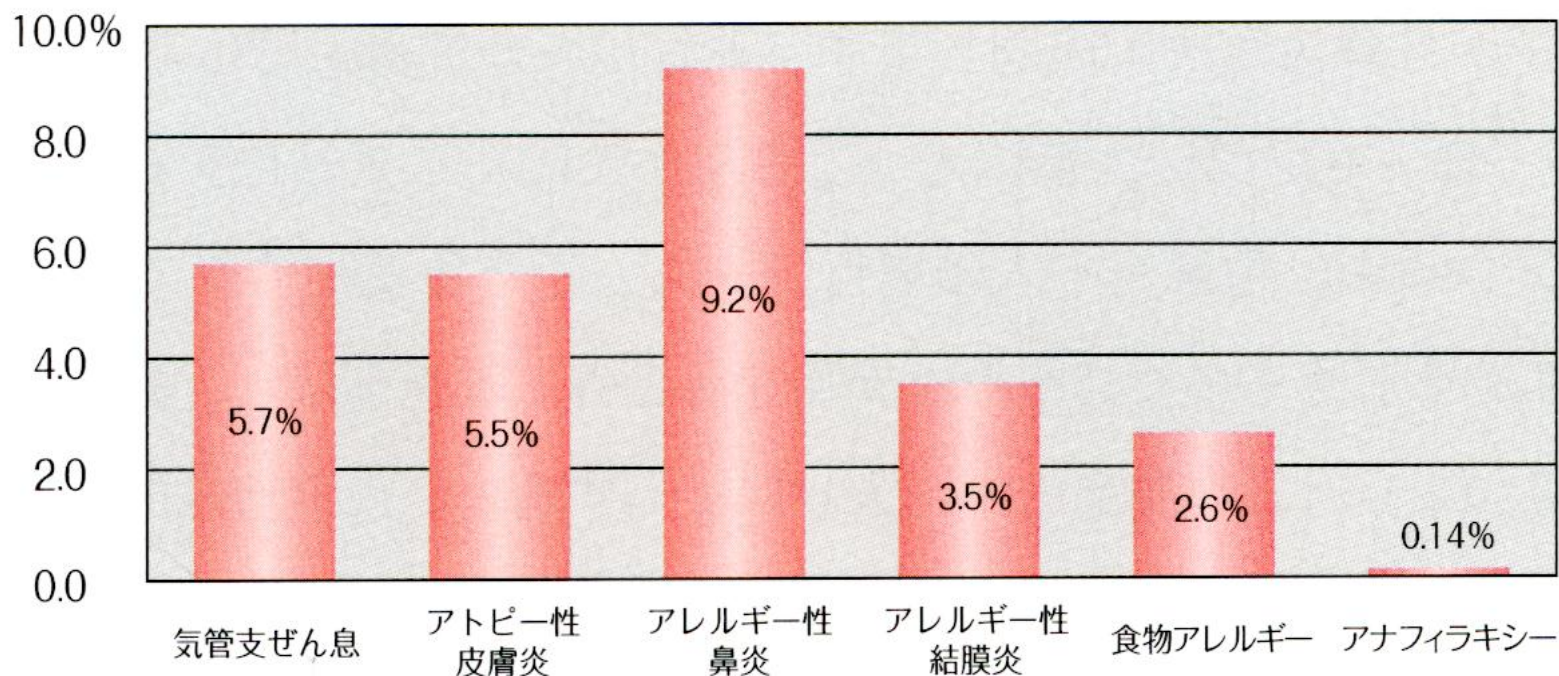
公益財団法人 日本学校保健会発行
文部科学省 監修
「学校のアレルギー疾患に対する
取り組みガイドライン」



文科省：アレルギー疾患調査研究委員会

初めての、アレルギー疾患の学校での調査(2004年)

児童生徒全体のアレルギー疾患有病率





アレルギーは増えています

- ・ **0.14%**のアナフィラキシーショックを起こすお子さまは
実数にすると**17880人**でした

2013年度（最初の調査からほぼ10年）

- ・ 食物アレルギー 4.5%（1.7倍）
- ・ アナフィラキシーの既往 0.5%（3.6倍）
- ・ エピペン保持者 0.3%（前回調査なし）

「学校給食における食物アレルギー対応に関する調査研究協力者会議」報告書より





40年の食品表示を振り返って

医療・患者会・行政・企業・教育等々に関わる方々のご尽力

ありがとうございます！！





ガイドラインもなく、食品表示もない中で

【1980年代】

- ・ 治療にガイドラインが無い
- ・ 食品に原材料表示がない
- ・ 問い合わせせても、答えるための準備が全くない

1988年12月8日

- そばアレルギーのお子さまが下校途中で亡くなる

【～現在】

- ・ アレルギー義務表示、推奨表示ができ、時々に見直された
- ・ 食品表示法が改正され
- ・ 委員間で「アレルギー表示は命にかかわる」が共通に認識
- ・ 今、外食についても、同じテーブルで検討されています





でも、まだ・・・

【食物アレルギーのガイドラインがありながら】

- ・ お米アレルギーの人でも“〇〇ひかり”なら食べられます
- ・ 血液検査の結果だけで「全ての食べ物にアレルギーがあります。食べるものに気を付けてください」
- ・ 関連性があるモノとしての除去、次々増える除去
- ・ 30年前の、試行錯誤していた時代の方法を続けるところも・・・
- ・ いろいろなものを、アレルギーと関係づけることも・・・

今後の対応には 信頼できる情報源との連携を





外食・中食へのお願い

- ・ 「全ての料理やお弁当に卵を入れる」ことの無いように
- ・ 「アレルギーの人に出すものではありません、うちで食べないでください」というようなことの無いように
- ・ 質問に「中途半端な情報、あいまいな答え」を出さないように
- ・ お弁当：裏返さなくても見える場所にアレルギー表示を
- ・ ネットは貴重な情報源・・・お店に紙情報を

【企業に】

- ・ 責任者以外にも、アレルギーに関する情報の共有を
- ・ 研修の機会を作り、できれば対処法も

【行政に】

- ・ 資格取得時・免許更新時に、アレルギー研修を



まずは、正しい知識を

【善意が基でも】

- ・ 農業高校 ⇒ **アレルギーの人でも食べられる卵を作ろう!**
- ・ 新聞社(記事にする)と地元スーパー(販売する)が協力

「患者会が文句を言って来ても、そんなことで対応はできない」

「他にもご意見をいただいているので、文言は削除しました」

「子どもたちは一生懸命考えました。勉強しなおします」

本来、人の命を育むもので、人が死ぬこともある

理解するのは大変なことだと思います

でも**周知の事実**となりました

誰に非がある、どこに責任があるではなく

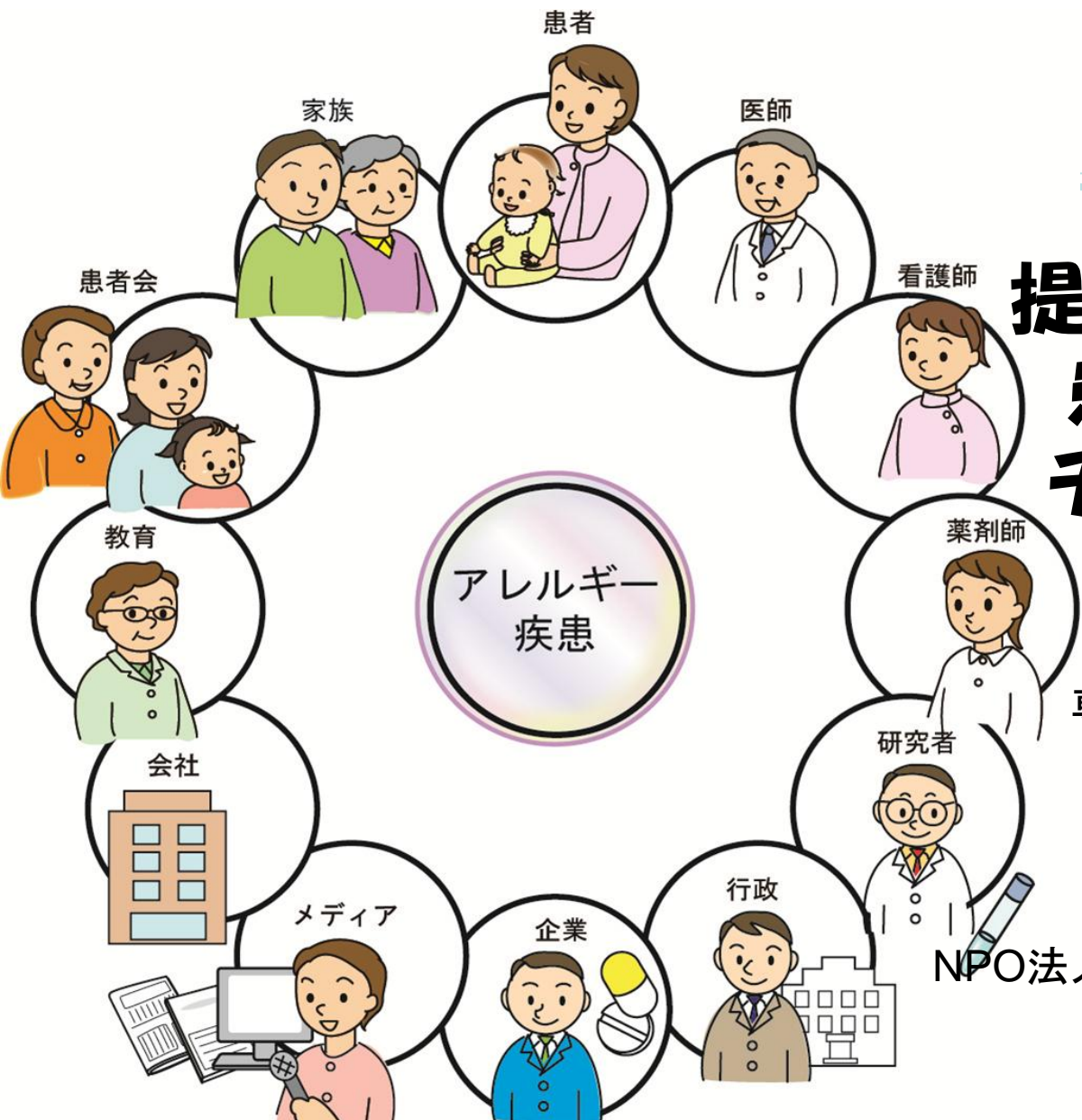


**頑張っている子どもたちの
笑顔のために
私たち大人のできることを**

**ここに集まっている患者会も
患者会としての社会的責任を
共に果たしてまいります。**

**みなさまも、企業として
ぜひ、自ら手を挙げて
もう一步のご尽力をお願いします！**





提言：アレルギー疾患 患者・患者会からの チーム医療に寄せて

日本アレルギー学会誌
専門医のためのアレルギー学講座
XII. アレルギー診療とチーム医療
アレルギー62(1). 2013

NPO法人アレルギー児を支える全国ネット
「アラジーポット」
栗山真理子